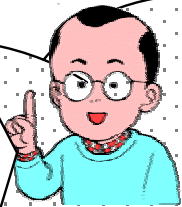


洗濯ネット・米ぬか 発泡スチロール箱で 生ごみの堆肥化



庭がなくても、ベランダでも簡単に生ごみが堆肥になります。
「あっちっち！何でこんなに熱いの!？」
米ぬか・自然の力、知られざる真実。
あなだけにそっと教えます！

コンポスト、EM処理に始まった生ごみの堆肥化。15年目で遂に衝撃的方法に発見！60以上の自然発酵による発熱。「無臭!?!虫もわからない!?!」すごいよ！

<準備するもの>

発泡スチロール箱 (フタ付き 注：密閉しないのでしっかりしたフタでなくてもよい))

保温性が大事です。木箱や段ボール箱ではうまくいかないかもしれません。

縦40cm×横47cm×高さ20cmを私は使っています。大きい箱がない場合は箱を二つに合わせて大きな(深い)箱を作ってください。

米ぬか 新鮮なもの(特に夏は1ヶ月以上経ったモノは不可。ムシがわいています)

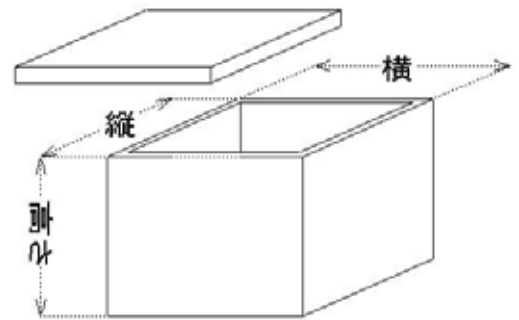
お米屋さんで安く売っています。用意する発泡スチロール箱に7~8分目くらい入る量。

洗濯ネット 60cm×60cmの洗濯用ネット。目が細かいもの。百元ショップでも売っているが、チャックが壊れ易いので注意。

ピートモス (ホームセンターで売っているもの 腐葉土でもOK)

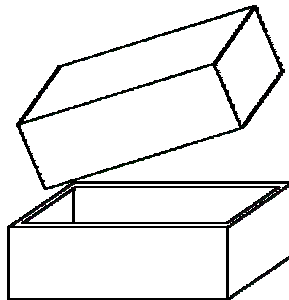
混ぜる道具 (要らなくなったオタマ、しゃもじ、スコップ等。)

その他 **古シーツ等の古布** (箱をおおえるもの) **ビニールシート**



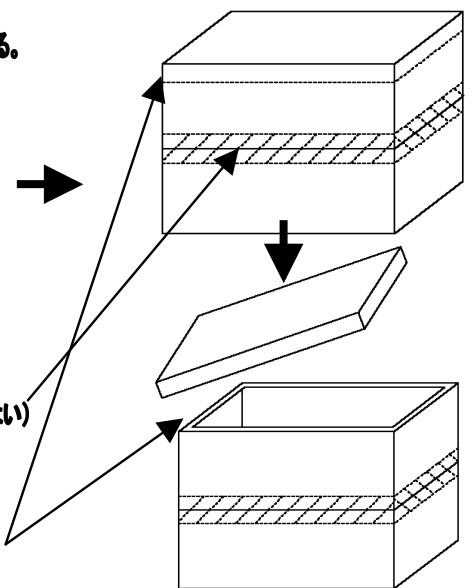
<簡単な大きな箱の作り方(例)>

同じ大きさの発泡スチロール箱を片方を逆さにして上下から貼り合わせる。



側面をガムテープ(布テープが丈夫でよい)でしっかり固定する

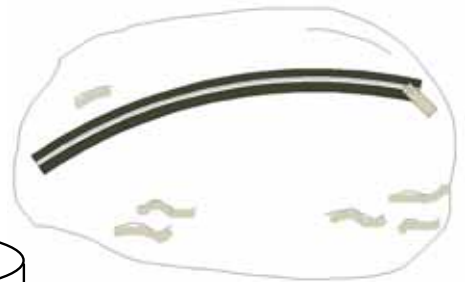
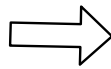
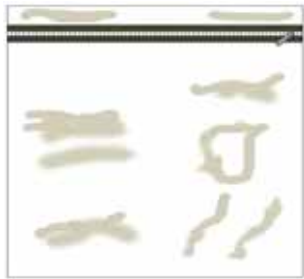
フタにもするため上部をカッターナイフで切り取る



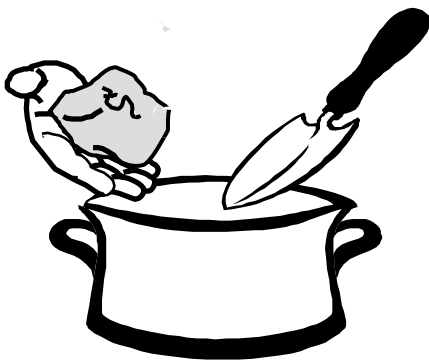
<作り方>

洗濯ネットの中に「ピートモス：米ぬか = 7 : 3」をネット全体の5～6分目くらい入れ、転がして適当にかき混ぜる。チャックをして、転がせば混ぜることができる。

ピートモスと米ぬかの比率は適当でもよい。ピートモスだけでも、米ぬかだけでも発酵する。米ぬかが多いほど、発酵熱が高い。



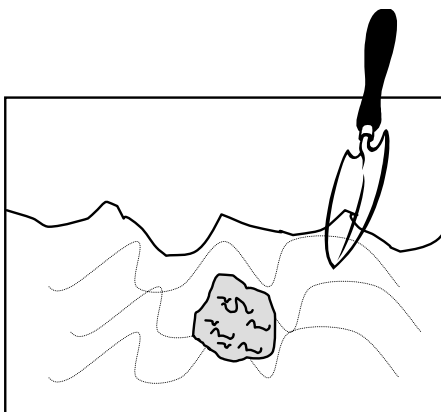
生ごみは、三角コーナーやザルで水を良く切っておく。



生ごみ三角コーナー一杯くらいに米ぬか片手2杯くらいを入れ、容器の中でよく混ぜる（=米ぬかをまぶす）。洗濯ネットの中で混ぜてもよい。

最初の頃洗濯ネットの中に米ぬか分が十分にあれば米ぬかを足さなくてもよい

洗濯ネットに生ごみを入れる前に、数回以上、空気を入れるため洗濯ネットを転がす。注意：ネットに生ごみを入れた直後は、かき混ぜない。生ごみと米ぬかが混ざった塊の状態にしておくことが発酵開始の良い条件

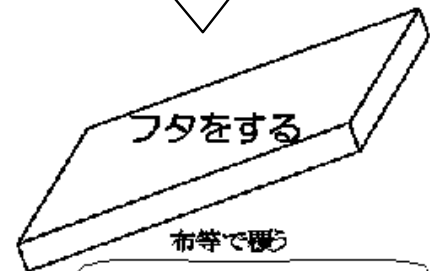
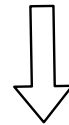
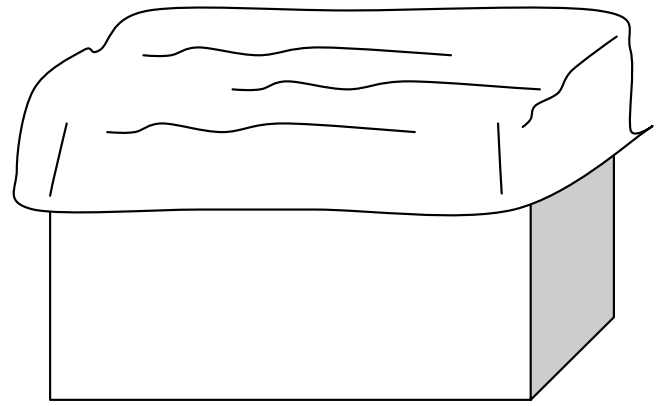
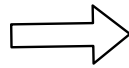
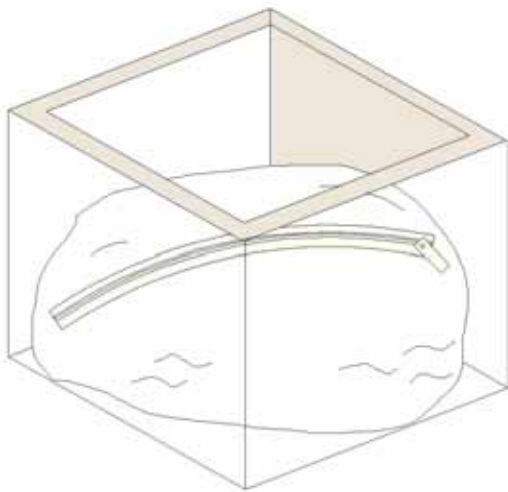


米ぬかをまぶした生ごみを洗濯ネットに穴を掘って入れる。

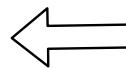
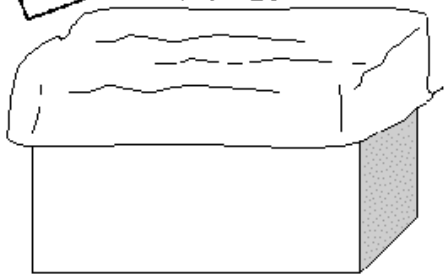
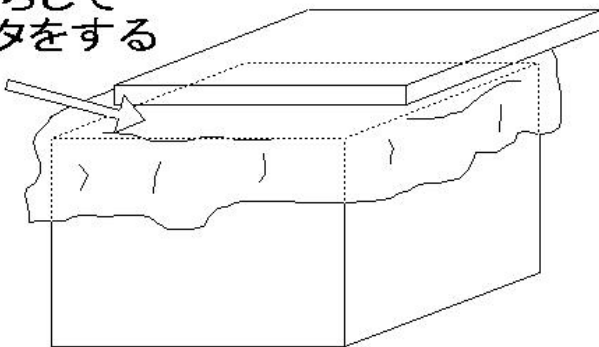
を省略する場合は、穴を掘って、生ごみを要れ、米ぬかをかける。そこで、米ぬかと混ぜ、最後に土（=ネットの中のもの）をかける。

米ぬか分が多く、米ぬかを足さない時は、中にある米ぬか分とよく混ぜる。

布等で覆う

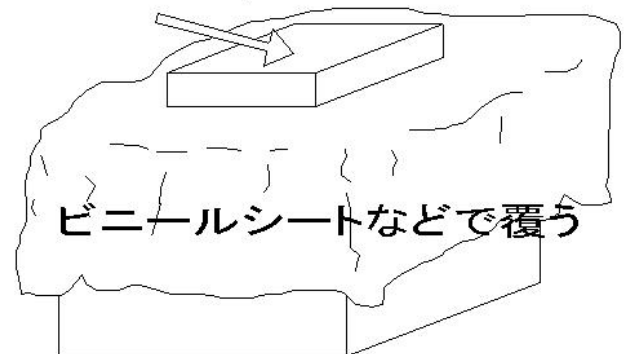


布等で覆う

ずらして
フタをする

洗濯ネットを発泡スチロールの箱の中
に入れ布等で覆い、ずらしてフタをする。
箱の中を密閉しないために、毎日生ごみ
を投入する場合はずらさなくてもよい

風で飛ばないように
重しをする

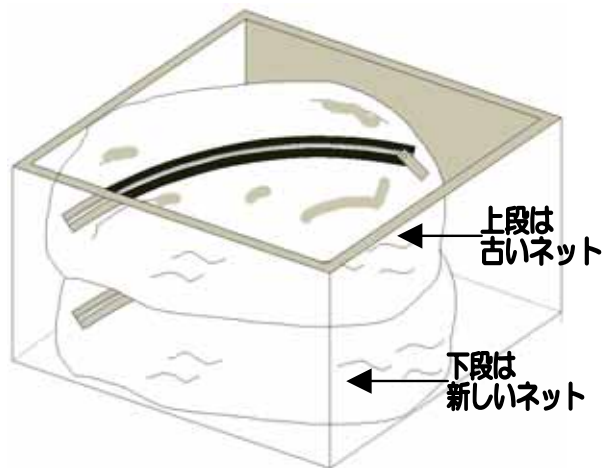


ビニールシートをかけて上から重して、軒下
などにおく。(雨対策と保温のため)
屋内に設置すると臭いがきつい場合があるの
でやめた方がよい。雨が吹き込まなければビニ
ールシートはなくても良いが、保温効果はある

毎日1回 ~ を繰り返す

2~3日すると発酵熱が止まる。再度発熱するのに2~6日位かかる。

ネット半分位から始めて、量にもよるが少しずつ増えはじめ2~3ヶ月で一
杯になる。一杯になったら、その一部を での腐葉土として使い始める。



秘策 ダブルネット

もうひとつの洗濯ネットを用意し、生ごみ堆肥化を始める。古いものは、上の段に乗せ、同じようにフタをする。

生ごみを入れる度に、両方の洗濯ネットを転がし、発酵させる。

古いネットには、新しい生ごみを入れないので、下段のネットの発酵熱で、発酵が進み、堆肥化が促進される

< 注意点 >

最初、白いカビが表面に頻繁に発生するがこれはうまくいっている証拠

洗濯ネットに入れる代わりに、そのまま発泡スチーロールの箱で実施してもうまく行くが、どうして箱の隅の土壌(床)は、混ざらず、発酵がうまくいかなかったりして悪臭がすることがある。洗濯ネットでの実施によって満遍なく発酵させることができるようになっていく。

今回は、土壌(床)を「ピートモス：米ぬか = 7 : 3」としたが、発酵促進(水と二酸化炭素分解)させるなら、杉チップ、おがくず、腐葉土、籾殻などを入れるのもよい。(利点は、あまり増えない。欠点は、出来上がりを肥料とするにはあまり向かない)

< 発酵の条件を考えるポイント >

適度な水分：50%くらいの水分が含んでいるのが適量。(生ごみのよく水を切った状態)多くても少なくても発酵はうまくいかない。

十分な空気：洗濯ネットの利点はそのかき混ぜやすさ。

温度：生ごみ堆肥化に有効な細菌は5~60 くらいがもっとも活発に活動する。最低でも40 以上は必要。絶えず、生ごみを入れ続けないと発酵熱は下がるがダブルネット方式で、入れ続けなくても、下段の発酵熱を利用して、上段の発酵促進させる。

細菌が住みやすい環境(床)：上記注意点を参考に入れるものを工夫する。

< 後書き >

洗濯ネットの方法は未だ一年くらいしか試していません。しかし「虫がわからない、悪臭がしない」という意味で、今までの単なる発泡スチーロール箱よりもかなり改善できる画期的方法です。多くの方に試していただき、やっているうちの疑問や問題点などは是非、教えて欲しいと考えています。皆さんと一緒に、この方法はもっと進化させたいと思います。

とにかく、この発酵熱は、初めて体験された方は大感激されるでことと思います。

地球と人類の未来に乾杯！

(壺阪道也記)

「ゴミゼロプラン静岡」市民ネットワーク

連絡先 壺阪道也 〒421-0111 静岡市駿河区丸子新田 277-4
TEL・FAX 054-257-3177 Email mirai2@bj.mbn.or.jp